

## 観測史上最高猛暑2023年！！！！

VOL.5【2023.10】

本年2023年夏(6~8月)の日本の平均気温は、1898年の観測統計開始以来、これまでの最高であった2010年を極端に上回り、観測史上最高となりました。本年の異常猛暑は、日本近海の海面水温の異常上昇が原因の一つであったと、気象庁の異常気象分析検討会などでも指摘されています。今回は、沿岸部と内陸部の平均気温について、POTEKA観測データを比較してみました。

2023年夏(6~8月)の日本の平均気温の平年値からの偏差は+1.76℃で、これまでの最高であった2010年の+1.08℃を極端に上回り、1898年の統計開始以来の最高で、文字通り、観測史上最高猛暑となりました【図1】。

8月28日に開催された気象庁の異常気象分析検討会では、本年の異常猛暑の原因として、太平洋高気圧の日本付近への張り出しの強まり、台風6号,7号などの影響による暖湿な空気の日本付近への流れ込みの継続などの他、日本近海の海面水温が記録的に高かったことも原因の一つに挙げられました。

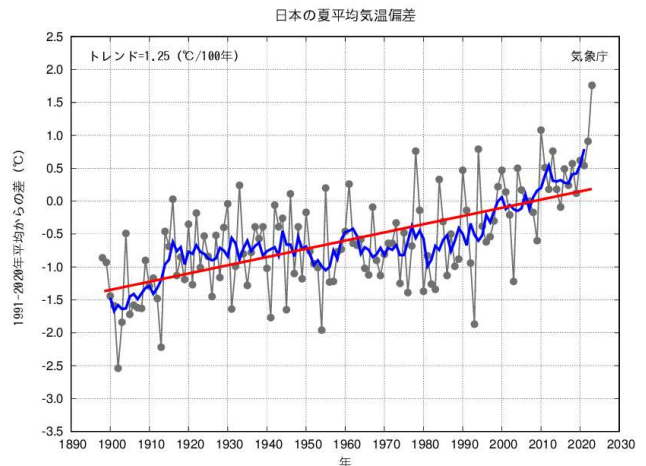
日本全国に観測網を持つPOTEKAは、沿岸部にも観測点があり、それらとほぼ同緯度の内陸部にも観測点を持ちます。海面水温上昇の異常猛暑への影響を確認するため、岩手県の内陸部2地点と沿岸部2地点の2022年と2023年の夏の平均気温を比較してみました【図2】。

### 内陸部(①葛巻町,③遠野市)

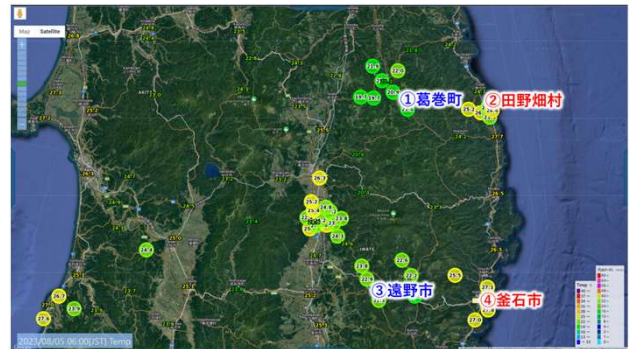
### ⇔ 沿岸部(②田野畑村,④釜石市)

【表1】の通り、2022年から2023年にかけての夏の平均気温の上昇率は、内陸部で1.7~1.8℃であったのに対し、沿岸部で2.4~2.7℃で、海面水温の異常上昇の影響が窺われる結果を、POTEKAでも見る事ができました。

日本の全国平均気温は、1898年から観測を継続し、都市化による影響が小さいとされる地点を、全国から偏りなく15地点選定し、その観測データを使用して算出されます。この15地点の内、内陸の観測点は3地点(山形,飯田,彦根)のみで、それ以外の12地点は海洋に近い観測点です。このことも、本年の日本の夏の平均気温の異常高値に影響した可能性があると考えられます。



【図1】日本の夏の平均気温偏差(気象庁HPより)



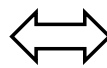
【図2】POTEKA NET (2023年8月5日6時気温)

①葛巻町	6月	7月	8月	夏	上昇率
2022年	16.1	20.9	20.6	19.2	1.8
2023年	17.0	21.8	24.3	21.0	



②田野畑村	6月	7月	8月	夏	上昇率
2022年	17.5	21.5	22.9	20.6	2.4
2023年	18.8	23.6	26.8	23.1	

③遠野市	6月	7月	8月	夏	上昇率
2022年	17.8	23.3	22.3	21.1	1.7
2023年	19.0	23.5	26.1	22.9	



④釜石市	6月	7月	8月	夏	上昇率
2022年	18.2	21.9	23.1	21.1	2.7
2023年	19.6	24.4	27.4	23.8	

【表1】岩手県内陸部/沿岸部POTEKAの夏の平均気温比較(℃)